

4 参考

東区の位置と地形

東区は、地形上では東西に二部に分かれ、西部は標高20m前後の名古屋台地、東部は守山区との境を西北に流れる矢田川左岸の平野で、その間は緩やかな傾斜をなしています。

矢田川は区内では数少ない水辺の空間であり、さまざまな水生生物や野鳥が生息し、水辺や緑地には多種多様な小さな草花がみられ、都市住民のオアシスとして親しまれています。

東区の地図をみると、中央付近には尾張徳川家の菩提寺である建中寺、その北部には徳川園があります。名古屋城から徳川園に至る南北1.5km、東西3.5kmほどの一帯には、江戸時代の尾張文化、明治以降の近代文化が凝縮されており、この一帯を「文化のみち」と呼んでいます。江戸時代、名古屋城の東の台地上に伸びた武家屋敷地区が「文化のみち」のルーツです。

地下鉄、JR、名鉄、市バスなどの交通機関が充実しており、区内全域が交通の便の良い地域となっています。



参考文献：ひがし見聞録

東区の歴史

名古屋のまちづくりは、1610年の名古屋城築城と同時に当時の尾張の国の中心であった清州からまちを移転（いわゆる「清州越」）することに始まりました。

東区は、明治41年4月に、名古屋市域を4つに分割する「4区制」の実施に伴い、西区、中区、南区とともに名古屋市最初の区の一つとして誕生しました。当時の区域は、広小路より北、本町通で二分した東側で、面積6.35km²、人口は約8万1千人でした。

その後、大正10年には周辺の町村の編入があり、面積も29.5km²（現在面積7.71km²の4倍弱）、人口も13万人を超えました。昭和に入っても人口増加は続き、昭和10年の国勢調査では26万人余りとなったため、昭和12年に区の東半分が千種区として独立しました。さらに昭和19年には、北区も東区から分離独立し、当時設けられていた栄区に一部が移り、ほぼ現在の東区に近い形となりました。

東区では、藩政時代に下級武士をはじめ、広く庶民の間で手工業が行われていました。明治になると、士族を中心とした人たちが、さまざまな事業を興しました。マッチ、時計、それに織物工場が、武家屋敷のあった区西部に、次々と設立されていきました。明治39年には、瀬戸自動鉄道（現名鉄瀬戸線）が全線開通、明治44年には中央線大曾根駅が開業し、産業の発展に貢献しました。

明治後期から大正時代には、陶磁器産業の中心として、大いに栄え、外国への輸出も盛んで、これらの取引銀行などが置かれました。後期になると大曾根より北東部の地域では工場の進出が相次ぎ、次第に重工業生産の中心となっていきました。昭和10年代には、航空機エンジンの生産拠点として、関連工場や人々が集中しました。このようなことから、太平洋戦争中はB29の激しい空襲を受けました。区の北東部を中心として、区域の6割が焼失、多くの人命が失われました。

昭和20年、東区の人口は4万2千人余りまで減少しましたが、その後、復興が進むなかで、昭和25年には7万人を超えました。街の整備も戦災復興都市計画により、着実に進み、道路などもあわせて改良整備されました。

現在では、オフィスビルや高層マンションが建ち並び、マンションの建設が進む中で、1世帯あたりの人数は減少しているものの、世帯数と人口は年々増加傾向にあります。

参考文献：東区史、東区制80周年記念誌「ひがし」、ひがし見聞録、広報なごや昭和63年4月号



東区の特徴

東区は、桜通・国道41号・19号等の主要幹線道路、地下鉄東山線・名城線・桜通線、JR中央本線、名鉄瀬戸線、全国で初めて中央走行方式が採用された基幹バスとガイドウェイバスシステムを導入したゆとりーとライン等の交通機関を持ち、快適な居住性を誇っています。西南部は、錦通・桜通を中心として中区とともに商業ビジネス地域を形成し、経済活動の拠点としての役割を担っています。また、中心部はおおむね閑静な住宅地、東部には多数の教育施設があり、さらに矢田川に沿った地域は高層マンションが立ち並んでいます。

人々の交流拠点

区の東部には、ナゴヤドームや文化小劇場・図書館・スポーツセンター等の複合施設「カルポート東」などが、西部にはオアシス21、愛知芸術文化センターなどがあり、人々が集う交流の拠点になっています。

近代化の足跡の残るまち

名古屋城から徳川園に至るエリアは「文化のみち」と名付けられ、名古屋の近代化の歩みを伝える多くの建物などの貴重な歴史遺産が残されており、建築遺産の保存・活用が進められています。その中でも、白壁・主税・檀木地区は大正から昭和初期を中心とした近代的な洋風建築が集まり、今も当時の面影を残すことから、市の町並み保存地区に指定されています。

◎ 伝統の山車と天王祭

筒井町と出来町には5輦の山車があり、江戸時代から続く山車まつりが地域の方に受け継がれ、市の無形民俗文化財に指定されています。それぞれの山車に受け継がれてきた華やかな人形からくりやお囃子は、毎年6月に行われる天王祭、徳川園山車揃えや10月の名古屋まつり、区民まつりなどで多くの人々を魅了し、楽しませてくれています。



じんこうしゃ
筒井町 神皇車



ゆとりぐるま
筒井町 湯取車



かしかじんしゃ
出来町 鹿子神車



かすいしゃ
出来町 河水車



おうぎししゃ
出来町 王羲之車

◎ 高校生・学生の多いまち

東区は、名古屋市内でも古くから文教地区として知られています。令和元年5月1日時点で、区内には公立私立あわせて8校の高等学校（通信制を除く。）があり、そこに通学する高校生は9,109人にもなります。これは16区中で2番目に多い数です。このほか、大学や専修学校が多くあり、たくさんの高校生・大学生が東区に通学しています。

参考：統計なごやweb版 令和元年度学校基本統計、ひがし見聞録

※専修学校は、職業もしくは実際の生活に必要な能力を育成し、または教養の向上を図ることを目的として組織的な教育をおこなう教育施設

◎ 人口が増加するまち

東区の人口は、5年前に比べ6,381人、8.49%増加し、平成31年4月には81,499人になりました。名古屋市が5年前に比べ49,429人、2.18%増加したことと比較すると、高い伸び率であることがわかります。

今後も当分の間、人口は増加する見込みです。

また、東区では、共同住宅に居住する世帯の割合は81.3%であり、中区に次いで多くなっています。共同住宅に居住する世帯のうち、15階建以上の共同住宅に居住する世帯の割合は15.1%であり、市内で最も高くなっています。

参考：統計なごやweb版 毎月の人口(推計人口)、統計なごやweb版 平成27年国勢調査



面積・人口・世帯数

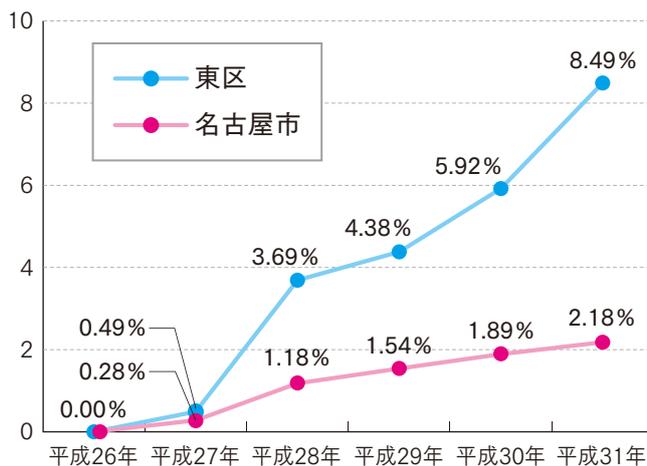
	東区	名古屋市	東区の順位 (16区中)
面積(k㎡)	7.71	326.45	16位
人口(人)	81,499	2,317,646	15位
世帯数(世帯)	44,161	1,108,084	15位
1世帯当たりの人員(人/世帯)	1.85	2.09	15位
人口密度(人/k㎡)	10,571	7,100	1位

(平成31年4月1日現在)

東区は、面積が名古屋市で1番小さく、人口・世帯数は2番目に少ない区です。
また、1世帯当たりの人員は2番目に少なく、人口密度は名古屋市で1番高い区です。

東区と名古屋市の人口推移

東区と名古屋市の人口増加率(平成26年基準)

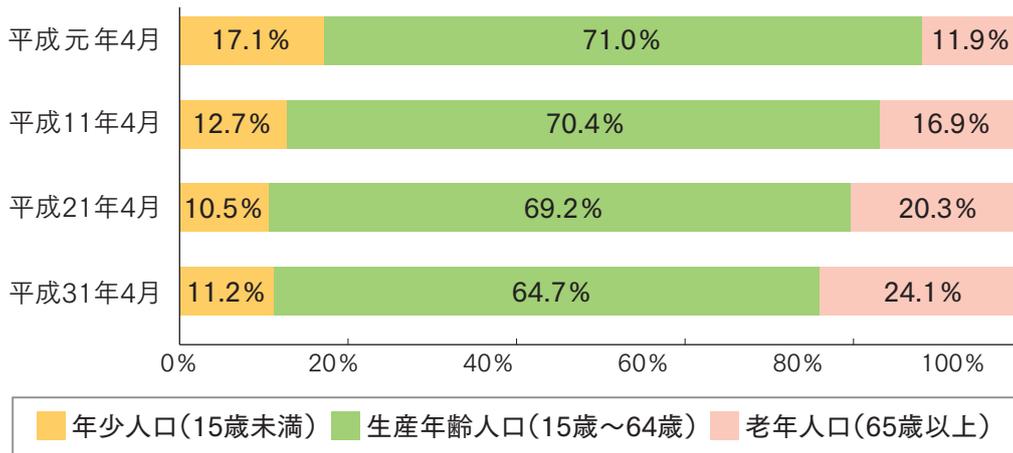


	東区の人口(人)	名古屋市の人口(人)
平成26年4月	75,118	2,268,217
平成27年4月	75,486	2,274,511
平成28年4月	77,888	2,294,952
平成29年4月	78,408	2,303,070
平成30年4月	79,563	2,311,132
平成31年4月	81,499	2,317,646

東区の人口は、5年前に比べ6,381人、8.49%増加し、平成31年4月には81,499人になりました。

名古屋市が5年前に比べ49,429人、2.18%増加したことと比較すると、高い伸び率であることがわかります。

東区の年齢3区分別人口構成比推移



東区の年齢3区分別人口構成比は、65歳以上の老年人口（以下「高齢者」という。）が24.1%を占めており、およそ4人に1人が高齢者となっています。

15歳未満の年少人口（以下「子ども」という。）は11.2%で、およそ10人に1人となっており、高齢者が子どもの約2倍いることがわかります。この割合は、名古屋市全体の人口構成比と同様の傾向にあります。

過去の年齢3区分別人口構成比と比較すると、30年前の平成元年4月に比べ、平成31年4月は高齢者の割合が2倍以上に増え、その他の割合が減少していることがわかります。

住宅の建て方別 世帯数

	平成22年	平成27年	平成27年 割合	平成27年 割合市内順位
世帯総数	37,599	40,180	—	
一戸建	7,045	7,132	17.9%	第15位
長屋建	564	302	0.8%	第14位
共同住宅	29,937	32,656	81.3%	第2位
建物全体の階数 15階建以上	3,935	4,947	15.1%	第1位
その他	46	90	—	—

東区は、平成22年と比較すると、平成27年の共同住宅の世帯数が約2,700世帯増加しており、15階建以上の建物の世帯は約1,000世帯増加しています。

東区将来ビジョン策定経過について

東区将来ビジョンの策定にあたり、区内官公署との連携を強化するとともに、幅広い意見聴取を目的に、下記の会議等を実施しました。

番号	日程	会議
1	平成31年 3月20日(水)	区政推進会議
2	令和元年 6月21日(金)	臨時区政推進会議 (第1回将来ビジョン策定会議)
3	令和元年 7月 4日(木)	臨時区政推進会議 (第2回将来ビジョン策定会議)
4	令和元年 7月17日(水)	臨時区政推進会議 (第3回将来ビジョン策定会議)
5	令和元年 7月31日(水)	区政推進会議幹事会 (第4回将来ビジョン策定会議)
6	令和元年 8月 8日(木)	臨時区政推進会議 (第5回将来ビジョン策定会議)
7	令和元年 8月20日(火)	区民会議
8	令和元年 8月26日(月)	民生会長連絡会 (ヒアリング)
9	令和元年 9月12日(木)	保健環境委員会 (ヒアリング)
10	令和元年10月	東区民アンケートの実施
11	令和元年11月12日(火)	大都市制度・広域連携促進特別委員会 における所管事務調査
12	令和元年11月22日(金)	区政推進会議幹事会 (第6回将来ビジョン策定会議)
13	令和元年11月26日(火)	臨時区政推進会議 (第7回将来ビジョン策定会議)
14	令和元年12月 2日(月) ～令和2年1月8日(水)	区民意見募集
15	令和2年 2月17日(月)	臨時区政推進会議 (第8回将来ビジョン策定会議)
16	令和2年 2月25日(火)	区民会議

※区政推進会議は、区における総合行政の推進を図るため、各区に設置されている会議体。東区では、東区役所、東警察署、東消防署はじめ26公所（署）がメンバーとなっています。

※区民会議は、区民の区政への参画を推進し、区の将来の方向性等に関し意見を聴取するため、各区が開催する会議。各学区の区政協力委員長をはじめ、東区内の各種団体等の長がメンバーとなっています。

シンボルマーク

(昭和62年9月制定)



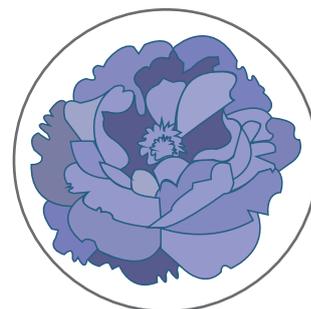
区の木「モクレン」

(昭和63年4月制定)



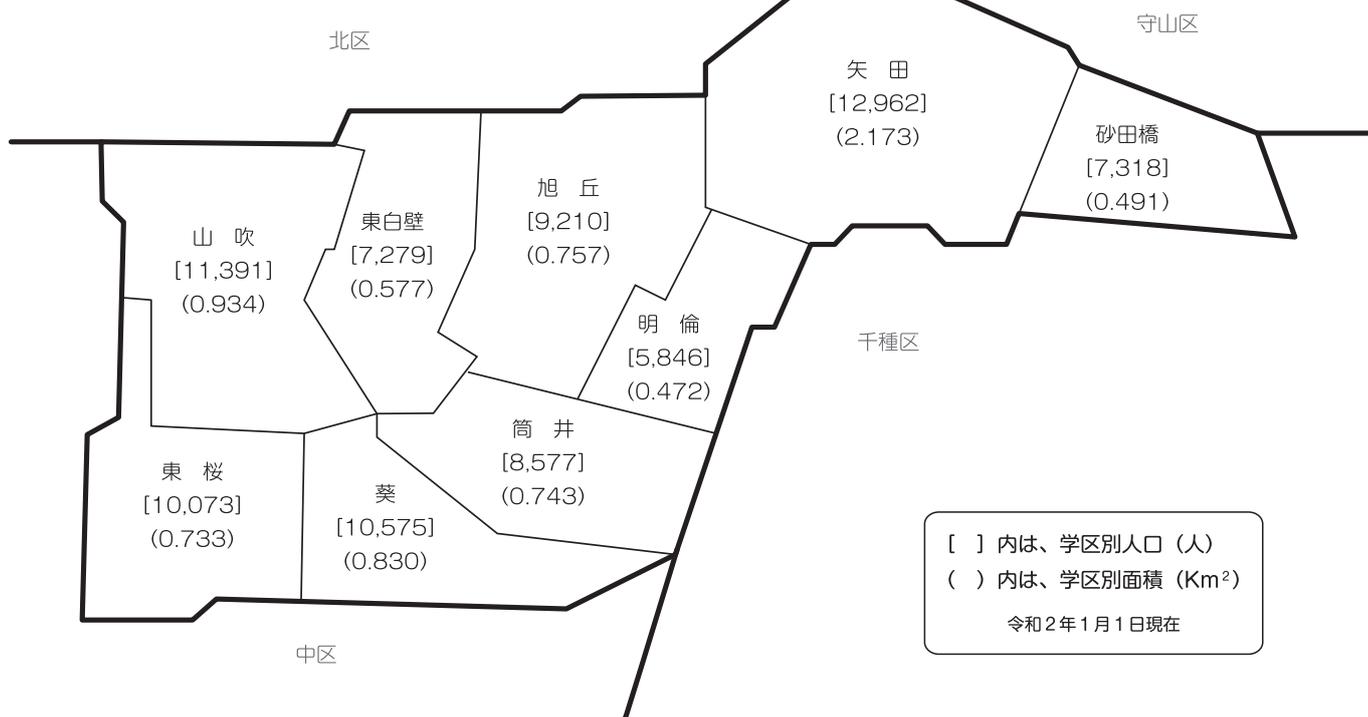
区の花「ポタン」

(昭和63年4月制定)



東=「EAST」をデザイン化したもので、全体の丸みは区民の和と明るい未来を象徴しています(色は瑠璃色)

東区の学区



発行 名古屋市東区役所 区政部 企画経理室

〒461-8640 名古屋市東区筒井一丁目7番74号

電話番号 052-934-1106 FAX 052-935-5866

e-mail a9341106@higashi.city.nagoya.lg.jp

東区公式 HP <http://www.city.nagoya.jp/higashi/>

★東区公式 Facebook・twitter で、東区の情報随時発信中★

発行年月：令和2年5月 発行部数：1500部

表紙題字

愛知県立愛知商業高等学校 書道部

表紙デザイン

名古屋市立工芸高等学校 デザイン科

